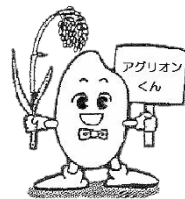


令和 7 年度の振り返りを行い、次の作付けの計画を立て始めましょう！



1 令和 7 年度の稲作総括 (コシヒカリ)

(1) 収量・品質の状況

- ・コシヒカリの 1 等級比率は 76.7% (ひすい営農センター管内・11/28 現在) と高温の中でも一定の品質を確保しました (参考: R6 85.8%)。
- ・主な等級落ちの理由は、①除青未熟、②部分カメ、③青未熟粒でした。
- ・作柄は「やや良」。振興局調べではコシヒカリの平均収量は 500kg/10a で、目標の 480kg/10a を上回りました。

(2) 等級落ち理由と発生要因 ～検査結果のハガキやお米の通信簿を見て、管理を見直してみよう～

理由	米の状態	発生要因	改善の方向
除青未熟	充実不足の米(やせ米や溝が深い米)や白未熟粒が多い等	高温、後期栄養不足、登熟後半の水不足など(複数の要因により発生)	土づくり、出穂 25 日後までの飽水管理、穂肥増量、適正な刈数の確保(適期中干し)
部分カメ (斑点米)	米粒に斑点米カメムシ類による食害が見られる	カメムシの多発生、薬剤防除の不徹底、草刈りの不徹底、本田内イネ科雑草の残草	畦畔・農道の草刈りの徹底、適期防除、本田内雑草の防除の徹底、色彩選別機の利用
青未熟粒	粒表面が緑色をしている米	登熟不足(早刈り、倒伏)、遅れ穂の多発生	耕深 15cm の確保(根の伸長促進、倒伏防止)、適期収穫(早刈り防止)、茎数過剰の抑制(適期中干し)

※上記以外では、白未熟粒(背白)、肌ずれ、着色粒等が一部で見られました。

(3) 収量・品質に影響した主な要因

- 今年では高温少雨でしたが、①適期中干しによる過剰生育の抑制と良質茎の確保、②1 回目からの適期・適量穂肥の施用及び追加穂肥の実施、③8 月第 2～3 半旬の降雨と気温低下によって、品質と収量が確保できました。

① 適期中干し、7 月の多日照

過剰生育抑制、茎質が良好で着粒多い

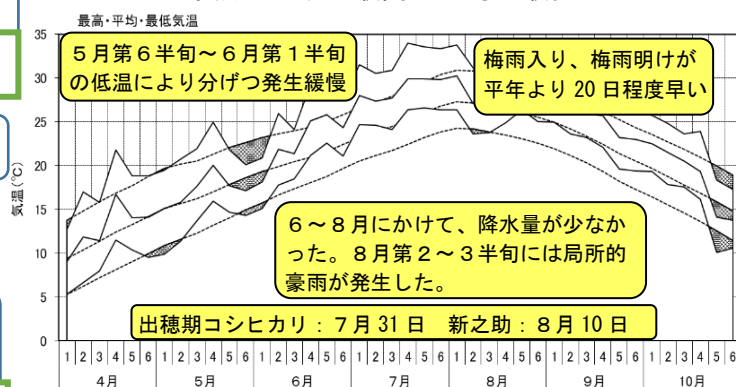
② 穂肥施用と適切な水管理

幼穂形成期頃に落ちた葉色を回復し、後期栄養を維持

③ 斑点米カメムシ類の多発生と防除不徹底及び水田内の残草(ヒエ等)

部分カメによる格落ち

糸魚川地域の最高・平均・最低気温



観測地点: 糸魚川市東寺町(標高 8 m)

(4) 農業者の声～アンケート結果より～

- 高温に対応した穂肥と水管理の徹底により、収量が確保された。
- 含鉄資材を施用したことにより粒の充実が良かった。
- 適期の中干しと降雨が少なかったことにより、過剰生育が抑えられた。

2 令和8年度の稲作に向けて ～収量・品質の安定化を目指しましょう～

目標 コシヒカリ 1等級比率：90%以上、収量：480kg/10a以上

重点技術対策

- 高温に対応するため、「健苗と中干しによる適正籾数の確保」、「穂肥と水管理による後半まで活力のある稲体づくり」を目指し、「適期収穫」を行いましょう。また、「適切な防除と雑草管理」で斑点米の発生を防ぎましょう。

① コシヒカリの適期移植 ～出穂期が早くならないように～

- ・高温登熟を避けるため、平坦部では出穂期が8月3日頃となるよう5月15日頃に田植えを行いましょう。
- ・老化苗とならないよう、田植え時期を考慮して適期に播種しましょう。
- ・初期生育を良くするため、健苗を移植しましょう。

② 適期中干しによる過剰生育防止 ～小ヒビが入る程度のちょうどよい中干し～

- ・田植え1か月後をめやすに中干しを開始し、過剰な茎数を抑制しましょう。

③ 中干し後の気象に対応した水管理 ～「水稻」と言うだけあって水が肝心！～

- ・米粒に70%程度のデンプンが蓄積される出穂後25日頃まではほ場水分を保ちましょう。なお、用水が確保できるのであれば、可能な限り遅くまでかん水しましょう。
- ・特に高温年は飽水管理による稲体ストレスの軽減が大切です。

④ 後期栄養確保を目的とした穂肥対応 ～近年の高温傾向に対応した穂肥を！～

- ・特に出穂10日前頃の「2回目穂肥」を確実に行きましょう。登熟後半まで籾に栄養を送るためには十分な量の穂肥が必要です。
- ・葉色を見ながら、必要に応じて3回目穂肥や全量基肥での追加穂肥を実施しましょう。

⑤ 適期収穫・適正調製 ～適期・適正な作業で1等米に仕上げる！～

- ・積算気温で大まかな収穫日のめやすをつけ、ほ場で籾の色（籾黄化率が85～90%くらい）を確認して収穫の判断をしましょう。
- ・早刈りは青未熟粒増加、刈り遅れは胴割粒発生を助長するので注意しましょう。

⑥ 土づくりと根域の確保 ～稲の生育を支える「基礎体力」を向上させる！～

- ・秋すき込みは、春すき込みに比べ田植え後のほ場のワキが抑えられます。わらが分解しやすいよう、地温が高いうち（10月上旬までがめやす）に5～10cmの浅うちですき込みましょう。
- ・ケイ酸施用は根の吸水力が上がり、高温時の品質低下を防ぎます。また、鉄を含んだ資材はワキの発生を抑え、根を健全に保ちます。
- ・作土深（目標15cm）を確保することで根量が増え、高温に耐えられる稲になります。できるほ場では1年に1cmをめやすに、15cmまで作土を深くしましょう。

カメムシ類による斑点米の発生防止

- ・畦畔、農道の草刈りを徹底するとともに、中後期除草剤により本田内の残草を減らしましょう。
- ・出穂期頃の薬剤防除を実施し、必要に応じて色彩選別機を活用しましょう。

『収量・品質向上！糸魚川産米』

お問い合わせ先	えちご上越農業協同組合（ひすい営農センター）	TEL 0120-640-184
	糸魚川NOSA Iセンター	TEL 0120-916-406
	糸魚川地域振興局農林振興部（農業普及指導センター）	TEL 553-1906

糸魚川市農林水産業振興協議会（糸魚川市、JAえちご上越、NOSA I新潟、糸魚川地域振興局農林振興部）